

JUDI JOURNAL

第2号

人と街づくりを考える情報誌

2019年10月

目次

巻頭-羅針盤

内発力と外力の選択

各ブロックの活動

●小さな空間から都市をプランニングする〈市民編〉
(関西ブロック)

●JUDI通信2019年秋号
(国際委員会)

●JUDI全国大会@石巻・女川
[公募型プロジェクト発表会1]
[公募型プロジェクト発表会2]
[フォーラム+パネルディスカッション]
[まち歩き1@石巻]
[まち歩き2@女川]
[エキスカッション@南三陸町他]
(全国ブロック)

●ツーリズムと都市デザインの課題ーバルセロナから学ぶー
(関西ブロック)

●映画上映+トークセッション
「FIVE SEASONS ガーデン・オブ・ピート・アウドルフ」
(九州ブロック)



もてなしドーム

巻頭- 羅針盤

内発力と外力の選択

金沢へ「地方の自律と連担」をテーマに移住した40年程前、親友だった加藤源君の奨めでJUDI北陸を立ち上げた。当時日本の各地域は焦土からの戦後復興を終え、新産都市やコンビナート構想など通産・建設・運輸による国家プロジェクトと企業誘致を受け入れ、工業立国の一翼を担うことを競っていた。

しかし、金沢はそうした外力導入とは反対の内発的な営みで戦後成長に対応していた。この姿勢は明治維新時も同様、多くの都市が文明開化・殖産興業の政策を受け入れ近代都市に変身してゆく中で、内発的な緩変の道を選んだ。

その歩みの行き先を見たくての金沢移住であったが、建築設計は東京発のデザインを追うのに熱心、都市・街づくりは霞が関と中

央コンサルによる画一的計画であり、地元コンサルは下請けだった。立ち上げたJUDIはコンサル・造園・行政・大学が参加し、地域個性や地域人材を育み、地域にこだわる計画を作成するといった自律の行動がテーマとなった。この方針は今でも続いていて北陸のチームワークや地域社会の信頼を得る要因である。

一方で自律性を重視しすぎて自閉に陥る危険性も感じている。明治維新も戦後の近代化も自らの過去を否定し外力を導入することで飛躍してきたように、自律性の強い金沢でも21世紀美術館や金沢駅もてなしドームなど時代の新風を受け入れて活性化しているようにである。JUDIも金沢も内発力を優先しながらの外力導入というバランスが似合っている。

金沢工業大学/北陸ブロック 水野一郎

関西ブロック

2019年第5回都市環境デザイン
セミナー

小さな空間から都市をプラン ニングする〈市民編〉

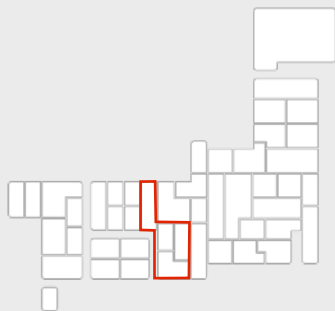
武田重昭、杉崎和久、吉田 哲、
穂苅耕介

<趣旨>

今回のセミナーでは『小さな空間から都市をプランニングする』という本を上梓された日本都市計画学会都市空間のつくり方研究会から、この本の1・3節「自負心が支える市民の営み」に寄稿された四人をお招きし、仏生山まちぐるみ旅館、五条界限、おやすみ処ネットワーク、善光寺門前の事例を報告いただきます。

いずれも市民の自分たちのまちをよくしたい、楽しくいたいといった気持ちが、地域の新しい価値創出に繋がってきた事例です。

これらは商店街振興組合やまちづくり協議会のような組織が行政と協働して実現しているということではなく、かといって自然発生的でバラバラな動きが市場のなかで最適解にたどり着いたというわけでもありません。



こうした小さな活動の担い手は、自分なりの都市や社会のあるべき姿を描き、できる範囲で小さな変化を起こしていくことで、共感する主体に連鎖してゆき、結果的にまちを変化させてきたと筆者は主張しています。

本当なのか？

それは持続するのか、都市全体に波及する力になるのか？

都市計画や都市環境デザインはこうした思い・動きをどう受け止めるべきか？会場の皆さまも交えて議論したいと思います。

セミナー委員 (前田裕資)



<報告>

関西ブロックセミナー「小さな空間から都市をプランニングする(市民編)」を開催しました。講師は40代を中心とした4名で小さな空間を活かす市民の営みの事例を紹介。後半はこうしたプランニングマインドを持った市民に対して専門家は何かできるのか、何をすれば良いのかのディスカッション。参加者がとにかく若いです。若者の関心がどこにあるのカーサーチするよい機会です。

金儲けと縁遠い、ギラギラ感のないほのぼのとした議論に古い世代としてはモヤモヤしつつ、これからのプランナーの役割を見つけようとぐるぐる考える時間でした。

ともかく地方で想いをもって頑張っている市民の良い話を聞けて幸せ感の高い元気になれるセミナーでした。

国際委員会

JUDI通信2019年秋号

JUDI通信2019年秋号へリンク

JUDI 通信

2019 年秋号 (No.13)

発行元：都市環境デザイン会議国際委員会

〒114-0012 東京都北区田端新町 3-14-6 ノース・ビル

HP: <http://hatorikeiro.wixsite.com/judi-international>

発行日：2019年9月25日

都市をデザインする

「道は狭いが、人情は厚い」魅惑の都市空間

都市の抱える大問題の一つ。典型的なモクミツ（木造密集市街地）の防災安全策を考えようという大阪市職（大阪市職員労働組合）の自治研究グループに誘われて、「七曲り」と呼ばれる、曲がりながら細く長く続く路地を、毎回迷いながら何度も歩いた。掃除の行き届いた路地の両側には背の低い木造の家々が並び、玄関前に防火バケツ、横には植え込みや鉢植えなどの緑と花がある。クルマが来ないから子どもたちは伸び伸びと走りまわり、行きあうお年寄りが長々と立ち話をする。なんとも平和で、居心地のいい空間である。七曲りには横道もたくさんあって、煩わしい出会いは上手に避けることができる。

土地の人から、ここは「道は狭いが、人情は厚いよ」といわれて納得。人間には、こういう魅力的な都市空間を作り出す能力があるのだ。上から目線の「モクミツ撲滅」で全面不燃団地化ではなく、こういう居心地の良さを生かしつつ、いかに防災安全度を高めていくかがポイントだと思った。では、その具体的な姿とは・・・

その昔、千里ニュータウンの開発事業に1962年から70年までの8年間、下っ端

の技術者として従事した。じつはその頃内部ではすでに都市デザインを熱心に追求していた。当時われわれ若手は仕事の合間に海外の雑誌をめくっては、使えそうなアイディアやデザインを片端から頂戴したものだ。職場にはフランスのドジュールジュイ（L'Architecture d'aujourd'hui）やイタリアのウルバニスティカ（Urbanistica）など、最先端のデザインやアイディア満載の新刊雑誌が積んであり、建物配置や景観デザインのバイブルとされた大判のタウンデザイン（Town Design, F.Gibberd 著 1953年初版）は座右の書だった。丘陵地での建物配置のコツは、地形の高いところにはドラマティックに背の高い建物を、低いところには落ち着いた戸建て住宅をとか、中層住宅の「囲み型配置」など、千里NTの特徴的な都市景観にはこの本がかなりの影響を与えたように思う。千里NTのモデルとされたロンドンのHarlow NTは、訪れてもいないのに隣町のように詳しくなっていた。

こうしてニュータウンづくりの現場で鍛えられたあと、縁あって長崎で研究者の世界に飛び込んだのが1970年の春。着任早々、まだ学生運動全盛期の熱気を引きつ

いでいた当時の元気な学生たちに、市内で動き出していた都市再開発に反対する「住民運動」の現場に連れていかれた。8年間、山あれば削り谷あれば埋めるという大規模な宅地造成と遊水池ダムの実施設計、そして住宅、商業施設、官公庁、駅舎、道路、上下水道などのあらゆる計画と設計、災害出動などを現場で経験して、自分は建築・都市計画の専門家だと思いがっていたのだが、現実のまちの現場はまさにカオス。つくる側の論理の通じない世界に踏み込んで、自分の無力さに愕然とした。と同時に、生きているまちの問題こそ、面白くてやりがいがあると知った。

これは現場で学ぶべしと、高度成長の大波が寄せてきていた九州各地で、自然や歴史的環境の破壊、高速道路、大規模河川改修、大干拓、海浜埋立て、大規模再開発などに抵抗する住民運動の現場に飛びこんだ。彼らに反対の理由を尋ねると、異口同音に「次の世代への責任」を口にしたのに感銘を受けた。私は「対案なくして反対なし」の姿勢を持ち込んで、運動には方向性と展望があると力説し、若干の信頼を得た。

民衆の知恵が造り出した「七曲り」の魅力を今後のまちづくりにどう活かすか。これは外国からの借りものではない、われらが目指すべき具体的な都市デザインへの試金石になるという気がしているのだが、正直とても難しい課題だ。



妻籠（重伝建地区昭和51年指定）の街並みが揺れている。保存活用建物の旅館群が経営難らしいが、要は後継者がいないらしい。宿場町が歯抜けになると、両側町の景観特性が失われる恐れがある。インバウンド客を頼みとする地方のまちづくりに大きな転機が訪れているようだ。

一方、京都の町家旅館は引手数多く、町家が次々に旅館化されている。大阪都心の民家民泊も盛んで、谷町や上町筋あたりでは消防車の入れない路地奥に古び

た民泊施設が散在し、スマホを頼りにインバウンド客が闊歩する。火事や地震がきたらどうするのか、それは杞憂か。

四季雫感



尾道市のU2（倉庫保存活用事例）を訪れたが、ここでは海外からの自転車ツアーを呼び込む集客に成功していた。地元市の支援も手厚いが、若者の貢献がすこぶる印象的だった。地方都市の文化的景観を持続するためにこうした若者のデザイン力や事業力が鍵である。

（関西学院大学名誉教授 加藤晃規）

片岡 俊秀：1938年生まれ。京都大学工学部建築学科卒、同大学院修了。学生時代は京大ラグビー部FW。西山烈三氏に師事。大阪府企業局技師、長崎造船大学、関西学院大学教授を経て現在NPOみつや交流亭・亭主。著書に「フナトシの歌」「千里ニュータウンの研究」「ながさき巡歴」「まちづくり道場へ、ようこそ」など



全国大会 1

「震災復興 石巻・女川のまちづくりを訪ねる」

開催趣旨

東日本大震災により、女川町は町人口10,014人のうち827人が犠牲となり、町外への人口流失も相次いだ。町の存続を賭けて早期復興はもとより、将来にわたって選ばれるまちの実現が不可欠となり、被災1カ月後に設立された民間組織「女川町復興連絡協議会」は、町の新たな将来像「海を眺めてくらすまち」を描いた。町民の町への思いを具体化させるため、女川町は2013年9月に「女川町復興まちづくりデザイン会議」を設置。町長、役場職員、工事関係者、都市デザイン専門家、町民が一同に会し、オープンな場でまちのデザインについて議論。レンガみちによる眺望軸はその成果の一つとなった。町の骨格が見え始めた頃、周辺では地区内の景観誘導を図る地元委員会が設立。豊かな景観形成に向けた取組みにより、自然と調和した街並みが実現している。JUDI関東+東北ブロックは震災復興の成功例と言われる女川町で全国大会を開催し、メンバーに広くその成果を実見してもらうとともに、現地の関係各位に復興まちづくりの経緯をお伺いし、意見交換と議論の場を提供したい。石巻市中心部のまち歩きにおいては、復興まちづくりで活躍されている方にご案内をいただき、震災後に整備されたCOMICHI石巻、今年4月に完成した旧北上川の堤防などを見学する。

都市環境デザイン会議 全国大会 2019 in 石巻・女川

都市環境デザイン会議 関東ブロック+東北ブロック共催 フォーラム後援：女川町

開催出典 - <http://haisha-yoyaku.jp/antenna/kurashiki-city-dentist>

震災復興 石巻・女川のまちづくりを訪ねる

日時：2019年10月18日（金）～10月20日（日）

会場：宮城県 石巻市 みやぎ生協文化会館 / 女川町 女川町まちなか交流館

1日目 10/18（金）

会場：宮城県石巻市
みやぎ生協文化会館
アイトピアホール
(地図画面)

14:00～15:30
16:00～17:30
18:00～

公募型プロジェクト発表-1
石巻市中心部まちあるき
懇親会-1 元気食堂 (地図画面)

2日目 10/19（土）

会場：宮城県女川町
女川町まちなか交流館
(地図画面)

9:30～11:00
11:00～12:30
12:30～15:00

公募型プロジェクト発表-2 (ホール)
全国ブロック幹事会・理事会 (ランチミーティング/会議室A)
※どなたでも参加できますので、是非ご参加ください
フォーラム「女川町の復興まちづくりの軌跡」(ホール)
■基調講演 平野勝也氏 (東北大学准教授)
■特別講演 小野寺康氏 (小野寺康都市設計事務所代表)
■パネルディスカッション
コーディネーター 伊藤 登 (JUDI理事/東北ブロック会員)
パネリスト 平野勝也氏
小野寺康氏
阿部喜英氏 (女川町観光協会会長)

15:00～17:00
18:00～

女川町まちあるき
懇親会-2 ニューこのり (地図画面)

3日目 10/20（日）

8:00～14:00
15:00頃

エクスカージョン (南三陸町他)
チャーターバス移動 (石巻駅前広場 8:00出発、女川駅前広場8:30出発)
JR仙台駅にて解散

本会は都市計画学会CPD認定プログラムです
10/18,19 公募型プロジェクト発表1,2 10/19 フォーラム
石巻市中心部まちあるき 女川町まちなか交流館

認定番号	CPD単位	認定番号	CPD単位
99190012	4.5	99190013	4.5

開催趣旨

東日本大震災により、女川町は町人口10,014人のうち827人が犠牲となり、町外への人口流失も相次いだ。町の存続を賭けて早期復興はもとより、将来にわたって選ばれるまちの実現が不可欠となり、被災1カ月後に設立された民間組織「女川町復興連絡協議会」は、町の新たな将来像「海を眺めてくらすまち」を描いた。町民の町への思いを具体化させるため、女川町は2013年9月に「女川町復興まちづくりデザイン会議」を設置。町長、役場職員、工事関係者、都市デザイン専門家、町民が一同に会し、オープンな場でまちのデザインについて議論。レンガみちによる眺望軸はその成果の一つとなった。町の骨格が見え始めた頃、周辺では地区内の景観誘導を図る地元委員会が設立。豊かな景観形成に向けた取組みにより、自然と調和した街並みが実現している。JUDI関東+東北ブロックは震災復興の成功例と言われる女川町で全国大会を開催し、メンバーに広くその成果を実見してもらうとともに、現地の関係各位に復興まちづくりの経緯をお伺いし、意見交換と議論の場を提供したい。

参加申込み先：都市環境デザイン会議 全国大会2019 in 女川町申込みフォーム
<https://forms.gle/SMfa2GWTbQhbm4V98>
お問い合わせ：都市環境デザイン会議 関東ブロック幹事 平松早苗
some_hira@ars-ld.co.jp 090-2736-4324



全国大会 2

[公募型プロジェクト発表会1]

2019年10月18日（金）
石巻市みやぎ生協文化会館アイ
トピアホール

発表①川でつながる～自然と
アートのまちづくり～

発表者：中村伸之（ビデオ発
表）

発表②ローカル線の環境デザ
インセミナーⅡ

発表者：柳田良造

発表③自然物が創る街の魅力に
関する研究

発表者：上坂達朗

発表④夜の水彩カフェテラス～
水辺空間を舞台とした地域の文
化創造実験～

発表者：茂手木功

発表⑤魅力再発見！東北酒蔵プ
ロジェクト

発表者：斉藤浩治



全国大会 3

[公募型プロジェクト発表 会2]

2019年10月19日（土）女川町
まちなか交流館

発表⑥神々の国、妖怪の町の親
水性～斐伊川の治水性能に着目
して水辺街づくりの可能性を展
望する～

発表者：高見公雄

発表⑦テニテオ n～まちの未来
をつなぐ緑あふれる並木道を描
いてみよう～

発表者：庵原義隆

発表⑧四国の都市環境デザイ
ン 事例集とツアーモデルコー
ス作成(高知県編)

発表者：西村駿／中嶋響（高知
工科大学学生）

発表⑨防府市中心商店街エリア
の空地利活用による都市環境整
備プロジェクト

発表者：林靖之（まちづくり防
府）



全国大会 4

[フォーラム+パネルディスカッション]

女川町の復興まちづくりの軌跡

■基調講演 平野勝也氏(東北大学准教授)

■特別講演 小野寺康氏(小野寺康都市設計事務所代表)

■パネルディスカッション

・コーディネーター

高見公雄(法政大学教授)

・パネリスト

平野勝也氏

小野寺康氏

阿部喜英氏(女川町観光協会会長)



【フォーラム】

女川町の復興まちづくりの軌跡

【基調講演 平野氏】

「時を繋ぐ」ことの大切さ
折り重なる記憶の多くが失われた。

日本の街は自然と共生
周辺との関係性を再構築

●持続可能性

「都市開発」から「まちづくり」へ。

相乗効果のデザイン。

お金を稼ぎながらまちづくり。

コンパクトな街。

人口減少時代のまちづくり。

石巻駅前

物販店の減少。

体験できる空間。

●日本の都市発展基本パターン
街の交通と繁華街の変遷の関係。

交通システムが街を支配する。
交通分散施策→地域価値維持。
のための交通集中へのパラダイムシフト。

●まちづくりの考え方

時を繋ぐ(自然との関係性の継承)

持続可能性のある街。

コンパクトで魅力ある街。

歩いて暮らせるor歩いて楽しい街。

交通集中によるポテンシャル担保。

●プロセス・体制の特徴

徹底した住民参加。

FRK(復興連絡協議会)

町民の明確な「意思」と「主体性」(口説ける水辺)。

最先端の公民連携(オガール紫波から学ぶ)。

URによる復興CM方式・コーディネートによる調整。

デザイン会議による即断即決。

●計画の特徴

段階構成による津波安全性担保工(水産加工業)→商→住という順番。

2つの中心街を1つに(コンパクト化)。

空地リスクを町が負担&徹底した申し出換地。

生活軸の導入。

街路型開発を目指す(ブロック型ではなく道を中心に考える)

生活軸、眺望軸それぞれの具体的な紹介。

主体的な景観づくり、協調による使い勝手の向上。

【特別講演 小野寺氏】

震災直後の瓦礫だった状況を解説。

女川町復興連絡協議会(FRK)の設立。

住宅地開発で出た切土を盛土に利用。

●海を眺めて暮らす街

ブレインストーミングでスケッチ。

交通ロータリーを駅広場の脇に設置。

復興まちづくりデザイン会議。

模型を作って壊しを繰り返した「しつこいくらいの質の追求(by高見)」は確かにあった。

●デザインの概要

周囲から街路軸に食い込むような空間デザイン。

ヨーロッパにある街路というよりバラバラの細長い広場を作った。



まちづくり会社が運営、設計者のプロポーザルなどを実施。

設計者は建築家の東利恵さんにプロムナードに食い込むような空間の計画依頼。

寄付材を活用したやすいコストで建設。

空間としては中庭ずらしこみ、プロムナードからの通り抜け通路、駐車場の分散配置によって利用の柔軟性を向上。

細やかにデザイン提案した宇野さんのカルテが個別の建築設計に影響した。

1月1日に初日出を見るをコンセプトにレンガみちは日出の軸線を向いている。

町民が導き出したコンセプトであった。

【パネルディスカッション】

・阿部

今まで被害のなかったところで被害になってしまった。

復興連絡協議会、商工会青年部で活動。

震災前はまちづくり塾を立ち上げていた。

持続可能なまちづくりを進めるためには、震災前の課題をどう解決するかを

民間の力でどう進めるかということで、木下斉さんの活動を参



考にした。

・高見

「しつこいくらいの質の追求」はとても褒めたい意図だった

・阿部

様々な偶然が行政との距離感は遠くなかった。

・高見

女川にはこのような空気があるのか、それは宮城県のことなのか女川だけのことなのか

・平野

女川のまちづくりは行政に頼らない、主体的にまちづくりが行われてきた地域。

まちづくりの潮目を見るのがうまい。

・阿部

女川は壊滅的な被害があったため、全面的に被災した。皆が復興のために外を向かざるをえなかった。

・高見

国からの支援にどう対応したのか？

・阿部

適切に使いましょうということで、国からの支援には完全に依存しなかった。

シーパルピアについてはテナントの募集をやった後で設計を進めた。

・高見

海を眺めて暮らす街以外に、それだけじゃない魅力があるからこそ、それが魅力的になったか

・小野寺

女川の人と話ししていると田舎の人と喋っている感じがしない。個性的でクオリティーの高い業態・業種が入ってきて。東京で飲むよりシーパルピアで飲んだ方が良くらいレベルが高い。逆にこちらが試されている感じがした。

・阿部

被災事業者だけが使える補助金だけでなく、寄付金で建てた仮設店舗で被災事業者じゃない方でも入れた。出店していたその方々をどう取り込むか、ということで積極的に取り込んで、まちなか再生計画第一号認定をとった。女川にきたら何かできるのではないかとという雰囲気がある。



ある。

・平野

原子力がある地域で被災した店子しか使えない補助金。家賃は安い、新規事業者しか使えない。

・高見

大胆な換地がなぜ出来たのか？

・末

特別上級傀儡子(くぐつし)です。土地区画整理事業は、地権者さんの合意さえ取ればという解釈。合意さえあれば、大胆な換地ができる。地権者さんの事業再建のスケジュールなどの需要を聞いて進めてきた。国の補助金に頼らない、行政による主体性が見られた

・平野

どこの自治体も出来る復興の枠組みであるが、行政の意気込みが試されている。女川の自治体はその意気込みが見えたため、国に対してもプラスに動いた。

・高見

短期間で作っている割には、長い時間かけているようにデザインされているように見られますが。



・小野寺

そう言っただけだと見る目がありますね。(会場 笑)

人的エネルギーを投入して、各メンバーの妥協しない努力があった。

・平野

どうしても住宅展示場のようにになってしまう復興が、女川の気質が表れているのか、意匠のコントロールはあまりしなくても、女川の個性が生かされつつ、街並みの強調が取れている。

・高見

【会場からの質問】

・須田(関東ブロック)

郵便局や銀行など、外観のバランスが取れている理由は何故か

・平野

全く同じ設定のカルテで進めていたことが大きい。逆に公共的なもののほうが聞いてくれなかった。

・柳田(中部ブロック)

カルテの話なんです、環境条件をどのように進めていったのか？

・宇野

業務としては求められていなかった。最低遵守事項などは考えていたが、ガイドラインではなかなか伝わらない。1/300の換地図をベースに事業者の書き込み、無いよりはあったほうが良いと思って、図面にして設計者に渡した。満点ではなく60点を目指した。事業経営者の状況が理解できていたため、40事業者への提案を行った。設計者へ伝わったのか、求めていなかったところまで頑張った人が



いた。

・小野寺

外壁屋根の色など、事業者からデザインの積極的な問い合わせや意外な提案があった。

・庵原(中部ブロック)

そもそもどのように主役である皆様が繋がったのですか？

・小野寺

当然、傀儡子(末さん)ですよ(会場 笑)

・末さん

またですか？(会場 笑)。海辺を魅力的に仕上げるということを命題としたことから、水辺空間のデザインに優れた小野寺さんにプレゼンしてもらった。宇野さんはURを経由して繋がった。両者は町長の問題意識を共有していた。そこでデザイン会議を作って重石を置いた。学識として平野先生にお願いして、枠組みを作った。自然川づくりとして吉村さんには、まちづく



り検討部会の部会長として入っていただいた。まずその道のプロを呼んでくる枠組みを設置して、必要に応じて呼んでくるという仕組みは僕の発明では無いかと思っています。(会場 笑) 駅前の商店街は民設民営で、誰を建築家として「女川みらい創造株式会社」が東さんと呼んできたところも含めて、女川のまちづくりのセンスを感じる。

・平野

契約上の甲乙問題で起こる、優劣関係が無かったことからうまく回ったのでは無いかと思った

・高見

ありがとうございます。みなさまのブラックボックスが溶けたのでは無いかと思います。最後にパネリストの方から何かありますでしょうか？

・小野寺

今晚の懇親会場である「ニューこのり」は「孤高のグルメ」などのTVにも取り上げられまし

た。日常がメディアにも取り上げられるくらい、他にも面白いお店がありますので是非楽しんでいってください。

・平野

費用を出すと、自分の名前が入ったレンガを置かせてもらえる。岩見沢駅(西村浩)の真似で、西村には一言いいましたが(会場 笑)。「ももクロ」のメンバーも来て名前もある。女川に一度来た方はまた来たくなる。これからのまちづくりにはリピーターが必要。復興事業者がいなくなった後の持続可能なまちづくりがやっていけるのか。終わりが始まりだと思う。みんな女川の人に取り憑かれる。ぜひ皆様も1年に一度は女川に来ないと生きていけないくらいに取り憑かれてください(会場 笑)。

・阿部

ありがとうございます。震災前の観光客数は年間70万人、これは充実したスポーツ施設と水産観光施設で持っていたと思いますが、現在は街で消費してくれる純粋な観光客数として40万人まで回復。魅力的な部分を伸ばして、純粋な観光客数として70万人まで持って行きたい。うちの街結構、前例が無いと国から言われるのが大好きで(会場 笑)、それ言われるとやりたくなる。来年、エリアとしての道の駅指定を狙っている(会場 驚)。施設建設を後付けで指定を受けるとするのは前例がない。今ここで次の一手を打って次に進めてゆきたい。

・平野

認定道の駅というのはあるけど、エリアでは無い。

・高見

ありがとうございました。

全国大会 5

[まち歩き1@石巻]

本日午後から『JUDI全国大会2019 in 石巻+女川』!!

今回も「街づくりまんぼう」さんにお世話になります。

(栗原 裕)

石巻市の中心部をまち歩きしています。震災後に整備されたCOMICHI石巻をはじめ、この4月に整備が完了した堤防などを説明いただきました。

(北陸ブロックFB)

石巻と言えば萬画館(石ノ森章太郎)! 本日の懇親会会場は萬画館が見える『元気食堂』! 旧北上川沿いです。

(栗原 裕)



全国大会 6

[まち歩き2@女川]

パネルディスカッションの後、平野氏、小野寺氏、宇野氏のご案内で女川の街歩きを行いました。

(金城 正紀)



全国大会 7

[エキスカーション@南三陸町他]

【JUDI全国大会2019in石巻・女川】

エキスカーションは、旧大川小学校や南三陸さんさん商店街、南三陸ハーマレ歌津を視察しました。これで全国大会は終了です。お世話いただきました東北ブロック、関東ブロックの皆様ありがとうございました♪
(北陸ブロックFB)



関西ブロック

2019年第6回都市環境デザイン
セミナー

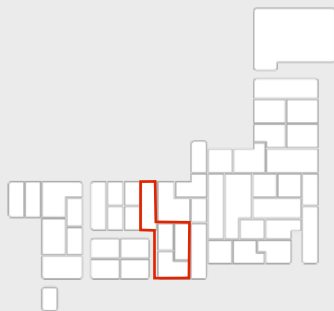
ツーリズムと都市デザインの 課題

ーバルセロナから学ぶー
＜趣旨＞

都市ツーリズムの拡大が都市に大きな影響をおよぼすだろうことは、これまでに予見されていたことであり、さらに1998年欧州都市計画家協会は改めてこのことを強調した。

都市ツーリズムに対して、都市デザインの役割は、まず、人を集める魅力の創出や維持・保全に求められるが、あわせて、宿泊、つまり一時的に都市に住まうことを支える施設の確保やその地域コミュニティとの融和にも求められる。近年は、ツーリストの爆発的増加を背景に、一時的な都市滞在をめぐる問題が大きな課題となっている。

バルセロナは諸都市に先立ってツーリズムの新しい動きにさらされ、先進的な取り組みを行ってきた都市として知られており、その取り組みについて紹介していただく。



合わせて、日本都市が置かれている状況をいかに認識すべきか、さらにはそれに対していかに取り組むべきかについて語っていただく。

なお阿部さんには、2012年に、「バルセロナ旧市街の再生」のテーマでこのJUDIセミナーでお話をいただいている。

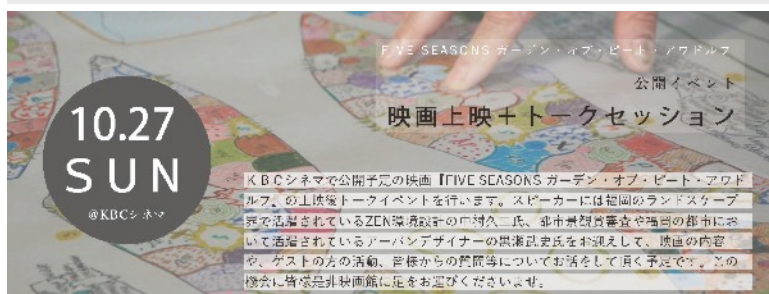
セミナー委員長 鳴海 邦碩



＜報告＞

関西ブロック、10月セミナー。今日は、ツーリズムと都市デザインの課題ーバルセロナから学ぶー。

阿部大輔先生（龍谷大学）のお話聞いています。場所の低俗化をもたらす、オーバーツーリズムの話題から始まりました。今日は満席！年内には本も出るそうです。



●福岡市十
●KBCビル
●イオン
●シーエス
地下鉄天神駅
地下鉄有明駅
西鉄
福岡(天神)駅

都市環境デザイン会議 活動記録 2019年8月-10月

月	8	9	10
上旬	【関西ブロック】 #2019年第5回都市環境デザインセミナー 小さな空間から都市をプランニングする〈市民編〉 《告知》 《報告》	ご興味のある項目をクリックしてみてください。	
中旬			【全国ブロック】 JUDI全国大会2019 in 石巻・女川 「震災復興 石巻・女川のまちづくりを訪ねる」 [公募型プロジェクト発表会] 《報告1》 《報告2》 《報告3》 《報告4》 《報告5》 [フォーラム+パネルディスカッション] 《報告6》 《報告7》 《報告8》 [まち歩き] 《報告9》 《報告10》 《報告11》 《報告12》
下旬		【国際委員会】 JUDI通信2019年秋号	【関西ブロック】 #2019年第6回都市環境デザインセミナー ツーリズムと都市デザインの課題 ーバルセロナから学ぶー 《報告》 【九州ブロック】 映画上映+トークセッション 共催 「FIVE SEASONS ガーデン・オブ・ピート・アウドルフ」